

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102394		
法人名	医療法人社団 愛寿会		
事業所名	グループホームあいの街芳川		
所在地	静岡県浜松市南区御給町263番地		
自己評価作成日	平成29年2月10日	評価結果市町村受理日	平成29年 4月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が経営しており24時間医師との連携が図れる為、入居者様の御家族より安心して頂いております。又、職員も安心して働く事が出来ています。季節毎に飾り物や花を変えたり入居者様と一緒に季節にちなんだ催しの飾り物を作ったり行事に出掛けたりして常に四季を感じて頂ける様な支援を心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [x.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2016\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=227](http://x.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=227)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年7月に母体法人が変わり、管理者や職員の入れ替わりもあり、職員の介護負担も多く大変な時期も合ったが、以前からの事業所理念が継続され「思いやりの心、ぬくもりの心、支え合う心」を実践し、少しずつ落ち着きを取り戻してきている。職員は利用者が夜間眠れない時、1対1で寄り添いながら話を聞くようにしたり、発語が難しい人にスキンシップや身体をさすったりし語り掛け、思いが感じ取れることがある。法人で外部講師による研修を受ける機会は多く、参加した人は伝達研修を行い全職員に周知する仕組みがある。職員同士は仲が良くコミュニケーションが取れ、新人職員も先輩に何でも相談できる環境で利用者への対応も距離が近く話が聞きやすい。フロアの壁に1週間分の献立がカラー写真つきで掲示しており、話題にし楽しめるように工夫している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 29年 3月 14日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に事業所の理念を伝えている。また月1回のカンファレンス等で確認し共有している。	昨年の7月に法人が変わり職員の交代もあったが、以前の開設当初からの事業所理念を継続し、玄関に入る訪問者の目に付く場所に掲示してある。新人研修や先輩からの指導で浸透され、職員同士の話し合いや相談もあって理念に沿った支援が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入はしているが日常的な活動には参加出来ない。夏祭り、秋祭りの際等で会話、交流を持つ様心掛けています。	地元の人居している入居施設のお宮の年末・年始の準備や祭りの模擬店に出かけ、近隣住民と交流している。自治会長や民生委員から地元の行事やサークル活動の情報が入り、祭り等に行ける人が参加している。法人が地域の餅つきなどに参加し事業所をアピールしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から相談を受けた際にはお話を聞いたり様々な介護サービスについての説明を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際出た意見をサービス向上にと努めています。	民生委員・包括職員・家族・地域住民の参加があり、7月より母体法人の変更、管理者交代の挨拶医療協力体制についての体制変化を伝えている。民生委員や自治会長など参加者からの意見や提案を活かせるようにしている。利用者の参加はなく、家族への議事録の配布がない。	家族へ議事録を配布し、家族や利用者の参加を促し、会議での意見や、話し合いがサービス向上に繋げられるような取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空室状況の提供や入居に関しての相談に対応して事業所の状況を伝えています。	行政には事故報告や状況の報告を提出している。防災アンケートや研修案内があるがあまり交流はしていない。包括職員は推進会議に参加し、顔見知りになっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には常日頃より拘束を行わない介護の実践を心掛ける様伝えている。入居者様には入居時の契約の際に説明をしている。	職員が一方向的に話をしたら、相手は話せなくなる、話を遮る対応は言葉の拘束にあたる等や介護ベッドに4点柵等細かい説明を行い、拘束のない介護の実践に努めている。ヒヤリハット・事故報告の作成の遵守を伝えている。	

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他施設でのケース等を参考にして職員間での行動、言葉使いに注意を払っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に1度の内部研修で学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り説明を行い理解を得てからの契約の署名を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの要望に関しては必要に応じ会議の場で話し合いを持ちます。御家族様には面会の際や行事の時等に御意見を頂く様にしています。	家族へ毎月ホーム便りを送り、施設での様子を伝え、家族会や面会時に職員から声をかけ意見を聞くようにしている、「現状のままで感謝」の言葉は聞けるが運営に関するようなことはない。利用者に要望を聞いているが、個人的なことで言ってくれることがあり、職員で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスの場で意見を聞き要望をまとめて事務長に伝えるケースも有ります。	会議で決まったことや、機械の取り扱い説明、危険な箇所で見つけた職員が自ら脱衣室・手洗い場・キッチン・事務所などに注意事項を掲示し、安全な対応の実行に周知されている。勤務体制や人員配置等の要望は法人の事務長に伝え、概ね叶えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が向上心を持って働ける様に職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数やレベルに応じて研修を受ける機会を設け質の向上に努めている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修や他施設での行事に参加することで交流する機会を作っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後は不安で落ち着かないというケースも有るので御本人と会話する時間を多く持ち御家族を含めて安心して生活出来る環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時にゆっくりと話しを聞いている。その中で今後の方向性を話し合い信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族との話の中で必要な支援を見極めて対応する様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内では「共に生活する」という事を常に考え出来る事をやって頂き出来ない事の見極めをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も外出や面会、行事への参加を御家族に促し面会時に最近の様子等を伝える様にし常に共に支援する関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に出来るだけ思い入れの有る品を持って来て頂く様お願いしている。御本人の希望を聞いて御家族に外出をお願いする事も有る。	以前活躍していた職場からの社内広報や写真が家族から届いたり、馴染みの人の訪問時にお茶を出したり一緒に話し、再訪問の言葉かけをしている。習字や歌などの得意なことの継続支援をし、葉書きを出したい人の出来ない部分の援助をしている。	

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握して必要に応じて職員が中に入り話を聞き孤立する事が無い様な支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も知人の入居の相談を受けたり必要に応じて他施設への様子伺いに出掛ける様にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に御本人の希望を確認している。	入居時、家族からの聞き取りや本人との会話から生活歴や趣味等の希望を把握している。発語や会話の不十分な人が不穏な症状の時スキンシップや身体をさすったりし、1対1で話しかけ、子供の頃や生活歴、職歴を語りかけることで思いが感じ取れることがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に御本人、御家族、ケアマネ等から過去の生活歴や他サービスでの様子を確かめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は経過記録、生活管理表に記録し心身の状態の変化を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方については御本人や御家族の希望、現状を考え御本人がより良く暮らしていく為の介護計画を作成している。	月1回カンファレンスを実施しモニタリングを行っている。定期的な計画の見直しや状況変化の時、更新時の介護計画はケアマネジャーが叩き台を作成し担当者会議を開催し日常の症状やサービス実施状況の記録、連絡ノートで職員は話し合い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果は経過記録に記録して職員間で情報の共有を図っている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人の身体状況や御家族の状況を常に考えてグループホーム以外のサービスを検討する事もあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人の暮らしを支えている地域資源の把握に努め生活を楽しんで頂ける様に支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認をして適切な医療を受けられる様な支援をしている。	入居時に協力医の説明をし、全員が協力医の月2回の往診をうけている。他科受診は日常の様子を記した書面を持参して家族が対応し、行けない家族には法人ヘルパーが有料で対応している。診療の報告を受け、家族、施設、医師の連携をとり、適切な医療が実施されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職、介護職が一つのチームとして連携し情報を共有出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医を通じて総合病院への連携がとれている。入院時には面会に行く際、病院の関係者と情報の交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、状態の変化があった時に医師を含めて話し合いを持ちその都度、御家族の希望を確認し希望に沿った支援に努めている。	入居時に重度化や終末期について話し合っている。状態の変化に応じて看護師、管理者、家族、医師と話し合い、家族の希望により施設で出来る範囲の支援をしている。昨年は医療機関での体制も十分で、毎日来る家族の見守りの中5名の看取りがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを利用し急変時の対応方法の確認をしている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間での避難訓練の実施や点検業者、消防署と連携しての通報訓練、消火器等の設備の取り扱いの指導を職員に行っている。	年2回消防訓練を行っている。キッチンからの火災を想定、消火器点検、緊急通報装置の使用119番通報や2階の利用者を駐車場へ避難誘導等、事前に計画書を出して訓練を行っている。「大地震に備えて」の市の出前講座を受講し、津波の時の2階への避難訓練などを実施している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩方に対して失礼の無い声掛けを心掛けている。居室やトイレに入室の際はノックする事を忘れない様になっている。	その人に合わせた声の大きさやトーンで車椅子の人の目線に合わせて低い姿勢で話すなど一人ひとりの人格を尊重した声掛けをしている。居室の内鍵を日中も使用している人のプライバシーの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中の職員との会話で希望をお聞きしそれに沿った援助を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間以外は特に決まりを設けず季節や天候に応じ個人のペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人が着たい服装をして頂いている。外出時にはお気に入りの帽子をかぶったりと個人の好みを尊重する支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には準備、片付けを一緒に行ってもらって頂く。食事時も介助は最低限とし御自分で食べる事の出来る環境作りに努めている。	献立つきの食材が外注で届き、職員が調理をする。玉葱やもやしなどの下拵えや見た目を綺麗に盛り付けるなど出来る事を一緒にやっている。誕生日やイベント、家族会時のメニューは希望を聞いて提供するようにし、回転寿司やファミリーレストランなどの外食に行くことがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態や体重の増減を確認し十分な食事、水分量が確保出来る様に食事形態の工夫をしている。		



静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいや義歯の洗浄、スポンジを使用しているケア等、個人の能力に応じたケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助の必要な方は排泄パターンを確認し日中はトイレでの排泄援助を心掛けている。夜間帯はオムツでも日中はトイレで排便を促す等、入居者様が不快と感じる事のない様な援助を常に心掛けている。	排泄表で一人ひとりの排便・排尿パターンを掴みトイレ誘導や排便コントロールを支援している。トイレ排泄の自立の人はいないが車椅子誘導時の立位保持や、残存能力を活かし出来る部分の継続に配慮した声掛けで支援をしている。	管理者は利用者が安易にオムツ使用でなくトイレでの排泄の継続を考えている。本人のもつ尊厳を尊重し、トイレでの排泄の自立にむけ、残存能力を活かした取り組みに期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を使用するだけで無く水分を促したりヨーグルトを食べて頂いたりトイレ誘導時の腹部マッサージ等、様々な方法で予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間の設定は行っていない。基本は隔日に入浴しているが毎日の希望が有れば出来る限りの支援をしている。	前日の入浴日を記録し1日おきに入浴をしているが希望で毎日の人もいる。職員の配置により、11時から16時の間でシャワー浴やスライドボードを使用して浴槽に浸かる人もいる。拒否する人に職員はお風呂が嫌いではないことを把握していて、声掛けの工夫で週2～3回は入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はエアコンや加湿器で室温の調節をし寝具の掛け物での調整をしている。日中も疲れが有れば休息の時間を取る様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を用いて用途の理解に努め看護師より服薬時の注意事項を説明するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	環境整備から洗濯、料理の下準備補助等、それぞれの能力を発揮出来る役割をお願いしている。外出、買い物等の機会を設けて気分転換をしている。		



静岡県(グループホームあいの街 芳川)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人からの希望には御家族にも協力を願い出掛けられる援助をしている。	駐車場での外気浴や施設の周りを散歩に出かけている。本人や家族から希望を聞き、デイのマイクロバスを借りて花見や公園までドライブに出かけたり、イベントで季節の花見に行っている。地元の祭りに出かけ、地元の人々と交流がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛けた際は支払いを御本人にして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればハガキや便箋を購入。電話も事務所のものを使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって草花や飾り物で変化を付けて入居者様に四季を感じて頂ける様工夫している。	庭で育てた花木が玄関に生けてある。ホールでは入居者同士の相性を大切に、同士の視線が合わないようテーブル席の配慮をしている。2つのソファでゆっくり寛げ、庭の草木が一面に臨める大きな窓が2重のガラス戸になっていて、自然な空調と明るさで心地よく過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、居室の他に玄関先に長いすを設置してプランターの花を觀賞しつつ入居者様同士で過ごす事の出来る環境作りの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に愛着のあった物や写真を持って来て頂く様をお願いしている。多くの方が部屋に置かれ楽しんでいる。	全員ギャッジアップのベッドをリースで使用している。家族が訪問時に寛げるよう椅子を持ち込んでいる人や馴染みの家具や写真、元職場の広報や日記、思い出の品、人形や飾り物を工夫しておいてあり、その人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の残存能力を活かして出来る事を探し自立した生活を送れる様に工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102394		
法人名	医療法人社団 愛寿会		
事業所名	グループホームあいの街芳川		
所在地	静岡県浜松市南区御給町263番地		
自己評価作成日	平成29年2月10日	評価結果市町村受理日	平成29年 4月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [k.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2016\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2277](http://k.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2277)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 29年	3月 14日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が経営しており24時間医師との連携が図れる為、入居者様の御家族より安心して頂いております。又、職員も安心して働く事が出来ています。季節毎に飾り物や花を変えたり入居者様と一緒に季節にちなんだ催しの飾り物を作ったり行事に出掛けたりして常に四季を感じて頂ける様な支援を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に事業所の理念を伝えている。また月1回のカンファレンス等で確認し共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入はしているが日常的な活動には参加出来ていない。夏祭り、秋祭りの際等で会話、交流を持つ様心掛けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から相談を受けた際にはお話を聞いたり様々な介護サービスについての説明を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の際出た意見をサービス向上にと努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空室状況の提供や入居に関しての相談に対応して事業所の状況を伝えています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には常日頃より拘束を行わない介護の実践を心掛ける様伝えている。入居者様には入居時の契約の際に説明をしている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川 )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	他施設でのケース等を参考にして職員間での行動、言葉使いに注意を払っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月に1度の内部研修で学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り説明を行い理解を得てからの契約の署名を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの要望に関しては必要に応じ会議の場で話し合いを持ちます。御家族様には面会の際や行事の時等に御意見を頂く様にしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスの場で意見を聞き要望をまとめて事務長に伝えるケースも有ります。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が向上心を持って働ける様に職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数やレベルに応じて研修を受ける機会を設け質の向上に努めている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川 )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修や他施設での行事に参加することで交流する機会を作っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後は不安で落ち着かないというケースも有るので御本人と会話する時間を多く持ち御家族を含めて安心して生活出来る環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時にゆっくりと話を聞いている。その中で今後の方向性を話し合い信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族との話の中で必要な支援を見極めて対応する様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内では「共に生活する」という事を常に考え出来る事やって頂き出来ない事の見極めをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も外出や面会、行事への参加を御家族に促し面会時に最近の様子等を伝える様にし常に共に支援する関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に出来るだけ思い入れの有る品を持って来て頂く様お願いしている。御本人の希望を聞いて御家族に外出をお願いする事も有る。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川 )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握して必要に応じて職員が中に入り話を聞き孤立する事が無い様な支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も知人の入居の相談を受けたり必要に応じて他施設への様子伺いに出掛ける様にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に御本人の希望を確認している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に御本人、御家族、ケアマネ等から過去の生活歴や他サービスでの様子を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子は経過記録、生活管理表に記録し心身の状態の変化を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方については御本人や御家族の希望、現状を考え御本人がより良く暮らしていく為の介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果は経過記録に記録して職員間で情報の共有を図っている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川 )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人の身体状況や御家族の状況を常に考えてグループホーム以外のサービスを検討する事もあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人の暮らしを支えている地域資源の把握に努め生活を楽しんで頂ける様に支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認をして適切な医療を受けられる様な支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職、介護職が一つのチームとして連携し情報を共有出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医を通じて総合病院への連携がとれている。入院時には面会に行く際、病院の関係者と情報の交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、状態の変化があった時に医師を含めて話し合いを持ちその都度、御家族の希望を確認し希望に沿った支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを利用し急変時の対応方法の確認をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間での避難訓練の実施や点検業者、消防署と連携しての通報訓練、消火器等の設備の取り扱いの指導を職員に行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩方に対して失礼の無い声掛けを心掛けている。居室やトイレに入室の際はノックする事を忘れない様になっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中の職員との会話で希望をお聞きしそれに沿った援助を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間以外は特に決まりを設けず季節や天候に応じ個人のペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人が着たい服装をして頂いている。外出時にはお気に入りの帽子をかぶったりと個人の好みを尊重する支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には準備、片付けを一緒に行って頂く。食事時も介助は最低限とし御自分で食べる事の出来る環境作りに努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態や体重の増減を確認し十分な食事、水分量が確保出来る様に食事形態の工夫をしている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川 )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいや義歯の洗浄、スポンジを使用しているケア等、個人の能力に応じたケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助の必要な方は排泄パターンを確認し日中はトイレでの排泄援助を心掛けている。夜間帯はオムツでも日中はトイレで排便を促す等、入居者様が不快と感じる事のない様な援助を常に心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を使用するだけで無く水分を促したりヨーグルトを食べて頂いたりトイレ誘導時の腹部マッサージ等、様々な方法で予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間の設定は行っていない。基本は隔日に入浴しているが毎日の希望が有れば出来る限りの支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はエアコンや加湿器で室温の調節をし寝具の掛け物での調整をしている。日中も疲れが有れば休息の時間を取る様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を用いて用途の理解に努め看護師より服薬時の注意事項を説明するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	環境整備から洗濯、料理の下準備補助等、それぞれの能力を発揮出来る役割をお願いしている。外出、買い物等の機会を設けて気分転換をしている。		

静岡県(グループホームあいの街 芳川 )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人からの希望には御家族にも協力を願い出掛けられる援助をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛けた際は支払いを御本人にして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればハガキや便箋を購入。電話も事務所のものを使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって草花や飾り物で変化を付けて入居者様に四季を感じて頂ける様工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、居室の他に玄関先に長いすを設置してプランターの花を觀賞しつつ入居者様同士で過ごす事の出来る環境作りの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に愛着の有った物や写真を持って来て頂く様にお願いしている。多くの方が部屋に置かれ楽しまれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の残存能力を活かして出来る事を探し自立した生活を送れる様に工夫している。		